

# 日本最大の山城、高取城

## 日本の山城 大高取城

### 高取城の歴史を知ろう！

#### 高取城の概要

高取に初めて城が築かれたのは南北朝期と言われています。奈良から吉野へと通じる交通の要衝として、芋峠を抑える重要な役割を担っており、地元の土豪越智氏が拠点としていました。越智氏は別に貝吹山城に本城(※2)を構えており、当時の高取城は越智氏の一支城(※3)に過ぎませんでした。また当時の構造は、現在見られる高石垣や、姫路城や大阪城にあるような天守はなく、山の地形をならして曲輪(※4)を築き、それを幾段にも連ねて逆茂木(※5)や、にわか造りの板扉で防御する中世の城郭であり、いわゆるカキアゲ城(※6)でした。

天正8年(1580)、織田信長による「城割(※7)の命が下り、大和国は郡山城を残し他の城はすべて破却することになりました。しかし同12年、大和国を治める筒井順慶は、郡山城の詰の城(※8)として高取城を定めて改修を行っていました。その後筒井氏が伊賀に移されると、代わりに大和国に入った羽柴秀長は、筒井氏同様に高取城整備を継続し、その時城主であった脇坂安治に代わって家臣の本多利久を入城させると、同17年に高取城の大改修を命じました。この本多氏の頃に近世城郭として、高取城は大きく様変わりすることになっていきます。記

録によれば、本多俊政が文禄2年(1593)朝鮮出兵の役から帰国した後に再築城したと伝わっています。徳川の世になった後も本多氏は引き続き高取城に入り、慶長5年(1600)には二万五千石に増加されました。

三代で本多氏が断絶すると、寛永17年(1640)徳川家譜代の家臣であった植村家政が、本多氏と同石高の大名として入り、高取藩初代藩主となりました。植村氏は将軍家光より、城の修理が必要な時は届け出をしなくても勝手に行ってよし(城山由来賞書)と、特別な待遇をもって高取城を任せられることとなります。以後、明治維新まで十四代の長きにわたって植村氏による高取藩が存続しました。

明治4年(1871)の廃藩置県の結果、全国の多くの城郭が廃されることとなり、高取城も同6年入札が行われました。城の大部分が取り壊し、または売却されました。しかし、子嶋寺に移築された二の門や、土佐小学校の校門を経て現在は児童公園に移築されている松の門など、ごく僅かですが城の遺構が現在も伝えられています。また絵葉書に残る明治20年頃に撮られた写真では、太鼓櫓や半左衛門櫓などの建物や城壁が、役目を終えて自然に朽ちていく様子が見られます。現在は高取城内には建物はありませんが、壮大な石垣を眺めることができます。



高取町の南東部に聳える標高583.6mの高取山には高取城が建てられていました。城下町の麓(札の辻)からの比高は446mで近世城郭(※1)では日本一の高低差を誇ります。全国屈指の名城であり日本三大山城の1つにも数えられています。

#### 日本三大山城とは

日本を代表する山城として、いつしか日本三大山城と呼ばれるようになり、高取城をはじめ、幕末期までお城が機能しており、それぞれが日本一たる特徴を持っています。



ありし日の高取城の姿をCGで再現しました。奈良産業大学(現奈良学園大学)によるプロジェクトです。



**美濃岩村城** 岐阜県恵那市岩村町城山  
岩村藩の藩庁であった岩村城は、近世城郭の山城としては標高721mと屈指の高さを誇ります。



**備中松山城** 岡山県高梁市内山下1  
臥牛山(がぎゅうざん)上に全国的にも珍しい、江戸時代の天守(国指定重要文化財)が現存します。

※1【近世城郭】16~17世紀に築かれた一般に知られる城。※2【本城】本拠地の城。※3【支城】拠点防衛の城。※4【曲輪】城内の区画された空間。※5【逆茂木】木の枝を逆立つように立てる防御施設。※6【カキアゲ城】堀を掘った土で土塁を固めた城。※7【城割】不要な城の破却命令。※8【詰の城】戦闘時の城。

明治32年に描かれた在りし日の高取城です。天守など二層三層の櫓群が林立していました。大和高市郡高取城之図(奈良県立図書館蔵)